

M22c 野辺山電波ヘリオグラフ科学運用延長期間における研究と施策 (1)

○増田智 (名古屋大学)、柴崎清登、下条圭美 (国立天文台)、一本潔、浅井歩 (京都大学)、横山央明 (東京大学)、野辺山電波ヘリオグラフ科学運用コンソーシアム

野辺山電波ヘリオグラフは、2010年度から2014年度までの5年間の科学運用の延長が認められた。2010年度は、その運用延長期間5年間の最初の一年にあたるが、国内ユーザーにより立ち上げられた野辺山電波ヘリオグラフ科学運用コンソーシアムが中心になり、運用延長期間中にできるだけ大きな成果が挙げられるように、これまで提案してきた研究計画を遂行すると同時に、研究以外にもさまざまな施策を実行してきている。

運用延長期間中に中心となる研究課題として「高エネルギー電子(数百 keV - 数 MeV)の加速/輸送/消滅機構の解明」、「コロナ磁場の導出」、「プロミネンス噴出現象の研究およびそれ用いた宇宙天気研究」、「2 solar cycles に渡る諸現象の長期変動」の4つの課題が設定されている。どの課題に関しても少しずつ成果が出てきており、本講演では、その研究成果の概要を紹介する。

また、研究以外の施策としては、「野辺山電波ヘリオグラフ科学運用コンソーシアム小委員会の設置」、「ユーザーズミーティングの開催」、「CDAW(Coordinated Data Analysis Workshop)の継続実施」、「国内太陽物理学者の野辺山短期滞在型研究の実施」、「Hinode との共同観測の積極的な推進」、「野辺山太陽電波研究者による学生指導及び出張講義・セミナー」、「成果のアピール」、「将来プロジェクトへの発展を見据えた連携」、「大学生向け宣伝企画」を掲げたが、そのうちいくつかは、すでに実行されてきている。それらの具体的な内容についても報告する。